



相ノ木っ子だより



令和3年度
2月号
上市町立
相ノ木小学校



晴れ渡る空の下、シュプールを描く



「あ、校長先生だ」「おーい。ヤンキー先生～」

リフトから眼下に広がるゲレンデに目を凝らし、相ノ木っ子たちを探していると、真下から声がとんできました。

県内でもオミクロン株の感染が拡大し始めた頃でしたが、予防に万全を期し、予定通り1月26日にスキー教室を行うことにしました。雨の予報も気がかりで、子供たちが思う存分滑ることができ、スキーを楽しんでくれるようお願いながら、当日の朝を迎えました。不安を吹き飛ばすかのような快晴が広がり、とても清々しい気持ちでゲレンデに到着しました。また、思っていた以上にパウダースノーの雪質で、暖かな日差しを受けながら気持ちよく滑ることができそうでした。そして、いざスキー教室を始めようとゲレンデに立つと、強い照り返しがとても眩しく、サングラスをかけに一旦戻ってから滑っておりました。その姿を見たある子がわたしに向けて叫んだのが、冒頭の言葉だったのです。スキーウエアにサングラス姿のわたしがやんちゃそうに見えたのでしょうか・・・。

子供たちのスキー教室の様子はというと、好天、雪質に恵まれ、わたしが願っていた通りに気持ちよくスキーを楽しむ姿がたくさん見られました。班それぞれに友達とシュプールを描きながら、インストラクターの方々からいいねいな指導を受け、ずいぶん上達した子供たちでした。上の方のゲレンデから見下ろす富山平野や富山湾の眺めもとてもすてきでした。そして、幸いにも体調が悪くなる子やけがをする子もいませんでした。おそらくとてもスキーが好きになった子が多かったのではないのでしょうか。やはり楽しく学ぶということが一番ですし、そのことによって心身共に充実した時間を過ごすことができるものなんですね。体調等それぞれの事情で参加できなかった子供たちには残念な思いがあるでしょうが、ぜひ来年は思う存分スキーに親しんでほしいです。

今、北京冬季オリンピックの真っ最中ですが、考えてみると、4年に一度のオリンピックを同年度に二大会も体験するのはとても貴重なことです。選手たちの奮闘を見ながら応援し、そこから何かを感じ取ることも大事なことです。東京オリンピックでの日本人選手のがんばりや活躍について9月号「オリンピックは誰のため？感謝の心とひたむきさ」で書きましたが、北京オリンピックのこれまでの競技でも多くのことを考えさせられました。採点に疑問が残る中、頂点に上り詰めた平野歩夢選手。万全の調子ではなかったでしょうが、オリンピック三連覇に向けて四回転アクセルにこだわった羽生結弦選手。失格処分を受けて辛く悲しい思いを抱きながら、二本目を飛び切った高梨沙羅選手。採点や検査等、難しいことは分かりませんが、どんな状況にあっても夢や目標をもってやり通す選手たちの姿に感動しました。まず、オリンピックに出場すること自体が大きな快挙なので、やはり選手一人一人を応援したくなりますね。選手それぞれ才能にあふれているでしょうが、やはり競技結果そのものではなく、それに至るまでの努力を賞賛したいですし、見習いたい姿であります。

イギリスの女性首相だったマーガレット・サッチャー氏は、次のように言っています。

懸命に働かずしてトップに立った人など、わたしは一人も知りません。

それがトップに立つ秘訣です。

**必ずしもそれでトップになれるとは限りませんが、
かなり近いところまでは行けるはずですよ。**



スキー教室を体験した子供たちも、少なからずスキーというものの難しさを体感した上で、多くのウィンタースポーツの熱戦を視聴していることでしょう。選手たちのがんばりや活躍によって、気持ちの高揚や励みを受けていることと思います。子供たちには選手たちの夢や目標に向かって努力する姿、周りの期待に応えようと奮闘する姿を見習ってほしいです。そして、わたしたちも子供たち一人一人の努力や願い、思いをきちんと認め、しっかりと励ましていきたいと思っています。

生ける命のある限り

私的なお話になることをまずお詫びします。先月末に父親が亡くなり、今月初めの1週間学校を休ませてもらいました。保護者の皆様、子供たち、先生方には、学校を留守にしている間ご迷惑をかけ、いろいろカバーしてもらいました。ありがとうございました。なかなかお礼を言う機会がありませんので、相ノ木っ子だよりを通じてお詫びと感謝の意を伝えさせていただきます。

これまでも身内の死と向き合うことはありましたが、同居家族の死、喪主の体験は初めてでした。重い病気がいくつも見つかった父の通院生活を少しは支えていたので、ある程度覚悟はしていましたが、予想以上に早かったなという思いです。また、通夜、葬儀の準備等ばたばたしていたこともあるでしょうが、意外に冷静な自分もいて、これは人としてどうなのか分かりませんが、あまり苦しまず逝ってくれたことにほっとした気持ちもありました。ただ、死後の対応に追われる日々が続いたことで、亡くなった父のことを思い返すことはあまりできませんでした。

家族葬を執り行ったため、父の友人、知人に訃報を知らせることが遅くなってしまったのですが、多くの方々からお叱りを受けながら、家に弔問しに來たり、遠方から悔やみの意を手紙で伝えてきたりしていただきました。そういった方々のお話を聞き、読む中で、故人は多くの方に囲まれて幸せな人生を歩んだのだと気づかされました。また、衣服や手帳、ボイスレコーダーの声等の遺品を整理していて、同居していたにも関わらず、あまり知らなかった父の思いや考えを知ることもできたように思います。

画家フィンセント・ファン・ゴッホは、次のように言っています。

死人を死んだと思うまい。

生ける命のある限り、死人は生き、

死人は生きていくのだ。

個人的かつ暗い話題を書き綴って本当に申し訳ありません。ただ、父の死を通して、命のつながりというものを考えさせられましたし、遺された者は、逝った者の分まで一生懸命に生きなければならないと改めて強く感じました。

また、イギリスの詩人ジョン・ミルトンはこう言っています。

自分の命を愛しても憎んでもいけない。

だが生きている限りは命を大切にすることがよい。

長く生きるか短命に終わるかは天に任せるがよい。

道徳や保健の授業、学級活動、「いのちの教室」といった出前授業等も含め、子供たちには命の大切さを常日頃訴えています。やはり死を見つめることは、生というものを実感することになります。子供たちがやがて自分の死生観がもてるよう、わたしたちは尽力しなければならないですし、自分や他人の命を一番に考え行動する、自分の命に感謝して一生懸命生きる相ノ木っ子に育てていかなければならないと考えます。

行事予定（2月中旬～3月中旬）

2月 7日（月） 教育相談週間（～2/14）

11日（金） 建国記念の日

14日（月） 自主学習がんばり週間（～2/18）

16日（水） けん玉大会

23日（水） 天皇誕生日

25日（金） 教室・特別教室ワックス塗布
下校 14:30

2月28日（月） 卒業を祝う週間（～3/4）

3月 4日（金） 卒業を祝う集会

18日（金） 卒業証書授与式

